

流水型ダム

事実確かめ官民一緒に

反対する市民団体 宮本さん招き新年学習会

川辺川上流に建設予定の流水型ダムに反対する市民団体の新年学習講演会が20日、元国土交通省防災課長の宮本博司さん(71)を招いて人吉市カルチャーパレス小ホールで開かれ、宮本さんは「国交省も川のことを分かっていない。現場の事実を目をよすがず、住民と行政が一緒にな

って取り組むべき」と訴えた。宮本さんは、京都大学大学院修士課程土木工学を専攻し修了。昭和53年に旧建設省に入省し、苦田ダム(岡山県)や長良川(岐阜県)の河口堰などを担当。国交省近畿地方整備局淀川河川事務所長として淀川水系流域委員会

河川局防災課長を経て平成18年に退職。現在は一市民として同委員会の委員長を務める。講演会には郡市内外から約400人(ウェブを含む)が出席し、午後2時に開会。

川辺川現地調査拡大実行委員会の林親通さんが開会を宣言し、宮本さんは「ダムで命と清流は守れるのか、国交

省元防災課長が答えます」と題して講話。

国交省職員時代に携わったダム関連事業を



多くの反対住民が詰め掛けた会場

取り上げ、「仕事に追われて組織の中で流された。ダムに賛成しても反対しても住民の心を傷つけることにショックを受けた」と振り返った。

流水型ダムに関しては「本当のことを知らずして賛成も反対もない」と強調。ダムの洪水調節の仕組み等にもふれ、「流入量は有限で効果は限定的。洪水規模が想定を上回ると効果は減少し緊急放流される。洪水位が計画を上回ると堤防は決壊する」と述べた。ダム事業を止めるにはどうすればよいかとの問いに対し、宮本さんは「フィクションに惑わされず皆で研究し、現地を確かめて真摯に話し合うこと」とアドバイスした。後半は人吉市や五木村、八代市坂本町の代表者らが河川改修やかさ上げ等の問題について発表。「ダムによるない流域治水と復興を求める十か条」を盛り込んだ宣言文を採択した。